



# 平成19年度 施政方針

いなべ市長 日沖 靖

## ■地域力の再生

「遠い親戚より近くの他人」と言いますが、向こう三軒両隣の交流を復活し、活性化することは、教育や福祉だけでなく、防犯や防災という観点からも重要となってきました。育児ノイローゼや引きこもり、認知症や寝たきりなどの社会問題についても、地域が助け合い、孤立化を防止できれば緩和されるところも多いと考えます。そこで、通学児童への挨拶運動、地域主体のコミュニティスクール、高齢者見守りネットワーク、地元の公民館を利用したデイサービスや健康啓発、地域を挙げたりサイクルや防犯パトロール、地域ぐるみで農地を守る活動など「自らの地域を自らの手で守り、活性化しよう」という活動を積極的に支援します。またNPO法人やボランティア団体の情報を集約、発信できるよう市民活動支援センターの設置を検討し、社会活動への市民参加を推進します。

## ■いなべのブランド化

旅先で「いなべ」を説明するのに、苦労されたことはございませんか。「いなべ」の特産品、郷土料理、名所旧跡、有名人、有名校、有名企業やイベントなど全国で話題になるような先進的な事業や事例を育て上げ、全国に発信し、「いなべ」ブランドの育成に努めます。「いなべ」の知名度を高め、市民のみなさまがこの地に誇りを持てるまちづくりを進めます。



守りたい、いなべの自然(川原白瀧棚田)

## ■民間活力の導入

行政運営へ民間の優れた経営手法を積極的に導入し、行政サービスの質の向上をめざします。阿下喜温泉など直営よりも、民間事業者へ委託した方が、小回りが利き、他の民間事業との連携が行いやすい事業については指定管理者制度を活用し、民間委託に切り替えます。



かけ流しのきれいなお湯 阿下喜温泉「あじさいの里」 ☎82-1126

## ■もったいないを形に

行政の歳出を根本から見直し、「入る(歳入)を量って、出る(歳出)を制す」を原則に徹底した歳出削減に取り組めます。老朽化した公共施設の建替えは学校や福祉施設を優先し、庁舎は耐震補強することにより引き続き使用するとともに、今後10年間を目途に、既存施設数の30%削減をめざします。図書館の本も、寄贈図書の有効利用を図り、新刊の購入を減らします。公用車は中古車での更新を原則とし、新車の購入を控えます。また、市内で放置された空き家を移住希望者に紹介する「空き家バンク制度」を創設し、空き家の有効活用と子育て世代の定住を促進します。合併して4年目を迎えました。今までは市民のみなさまとの関係は大きく変えず、市役所の内部改革を中心に、行政サービスの向上や事務の効率化に取り組んできました。平成19年度は重複する施設の統廃合、赤字決算を続ける水道や国民健康保険の料金の改定など大きな課題についても議論を深め、改革できるものから実施したいと考えます。